

【平成23年度下期】

概 要 公 表

区分	No.	概 要	原 因	改善・対応策
レ ベ ル 3	1	<p>検査のため、ストレッチャーから透視台に移動させ、うつ伏せから、仰向けにするため、4人で介助した。</p> <p>5日後、左上肢の痛みが増強し、腫脹も見られたことから、レントゲン撮影を実施。</p> <p>結果、左上腕骨骨折と診断され、胸帯固定となった。</p>	<p>検査前後に転倒等の事実がないことから、うつ伏せから仰向けにする際、麻痺側の左上肢を下にして体位を変えたため、負担がかかり、骨折したものと考えられる。</p>	<p>うつ伏せから仰向けへ体位を変えるとき（麻痺のある患者も含む）の検査時体位変換マニュアルを作成。</p> <p>マニュアルについて関係部門に周知徹底を図った。</p>
	2	<p>透析中に、静脈針が抜けて出血し、血圧が低下していることに気づいた。</p> <p>その後、点滴と酸素吸入を行い、経過観察のため、一泊入院となった。</p> <p>貧血症状が改善されないため、5日後、輸血を施行した。</p>	<p>静脈針につながっているチューブを固定するテープが手関節にかかっていたため、患者が動いた際にチューブが引っ張られて、静脈針が抜けた。</p>	<p>チューブの固定については、手関節にかからないよう透析マニュアルを改訂した。</p> <p>透析中の患者の状態の観察について、関係部門に周知徹底を図った。</p>
	3	<p>人工呼吸器装着中の患者がショック状態となり、腎障害及び肝障害が起こった。</p> <p>そのため、人工呼吸器管理下で強心剤や利尿剤の使用、及び透析治療など濃厚な治療の結果、回復し退院した。</p>	<p>人工呼吸器回路に薬剤入りの超音波ネブライザーを組み込んでいたことや、毎日交換しなければならぬ呼気フィルターを交換せずに使用したため。</p>	<p>呼吸器回路に組み込んで超音波ネブライザーを使用することは禁止とする。</p> <p>呼気フィルターの交換は1日1回、または分泌物が付着した時に実施することを関係部門に周知徹底を図った。</p>